

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

チャのカンザワハダニ(一番茶摘採後～二番茶萌芽期)の防除対策(技術情報第2号)  
について(送付)

このことについて、現在カンザワハダニの発生が多くなっています。二番茶に向けた対策を取りまとめましたので、防除指導の参考にご活用下さい。

---

チャのカンザワハダニ(一番茶摘採後～二番茶萌芽期)の防除対策(技術情報第2号)

1 現在の発生状況

- (1) 5月中～下旬の巡回調査の結果、成虫の寄生葉率は11.6%(平年5.0%)と高い。過去10年間では平成12年(15.1%)に次ぐ高い寄生葉率である。発生ほ場率は70%(平年52.8%)と高く、経済的被害許容水準(寄生葉率20%)を超える多発生ほ場が30%を占めており、今後萌芽とともに二番茶への移行が懸念される。
- (2) 茶業研究所(御船町)の調査では、茶業研究所内の調査地点において寄生葉率は4月5半旬以降増加し、5月1～2半旬には平年値の2倍以上となった。その後、防除を行ったため5月3半旬以降急激に減少し平年より少なくなっているが、調査地点外では多発生園が見られている。また、平年の寄生葉率では6月3半旬まで増加傾向にある。
- (3) 病害虫防除員からの報告では、5月の発生は平年比多～少と地域差があるが、現在は少発生の地域でも一部で多発園が見られている。
- (4) 平成17年5月27日福岡管区気象台発表の1ヶ月予報によると、6月の気温、降水量とも平年並の見込みであるため、現在の多発傾向がこのまま推移すると予想される。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 一番茶摘採後の防除を行った園でも密度の低下が見られない茶園では、摘採前使用日数を確認したうえでただちに(二番茶萌芽～1葉期まで)防除を行う。
- (2) 防除にあたっては安全使用基準を遵守する。
- (3) 摘採前に発生が多い場合は、摘採を早めて被害の軽減に努める。
- (4) 多発して落葉の激しい園では、二番茶摘採後に深刈りして密度を下げる。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一薬剤及び同一系統薬剤を連用しない。

【参考資料】

表 1 巡回調査におけるカンザワハダニ寄生葉率(%)の推移

	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7	平 年 (過去 5 年)
5 月	11.6	3.8	2.1	0.8	2.9	15.1	10.2	0.8	5.6	4.3	11.4	5.0

注 寄生葉率は 50 葉中の成虫寄生率。

表 2 チャにおけるカンザワハダニに登録のある主な薬剤<sup>\*1</sup>

系統名	農 薬 名 <sup>*2</sup>	使用時期
殺ダニ剤	アニバース乳剤	摘採 14 日前まで
	サンマイトフロアブル <sup>*3</sup>	〃
	ダニトロンフロアブル <sup>*3</sup>	〃
	マイトコーネフロアブル	〃
	ミルベノック乳剤	〃
有機リン系	ニッソラン V 乳剤 <sup>*4</sup>	摘採 10 日前まで
その他	コテツフロアブル	摘採 7 日前まで

\* 1 平成 17 年 5 月 28 日現在で登録がある薬剤のうち、平成 17 年度病害虫防除指針に掲載している表から抜粋。

\* 2 系統別に 50 音順で掲載。

\* 3 作用性が類似しているため、ピラカ EW、サンマイトフロアブル、ダニトロンフロアブル間での連用を避ける。

\* 4 作用性が類似しているため、カラフロアブルとの連用を避ける。

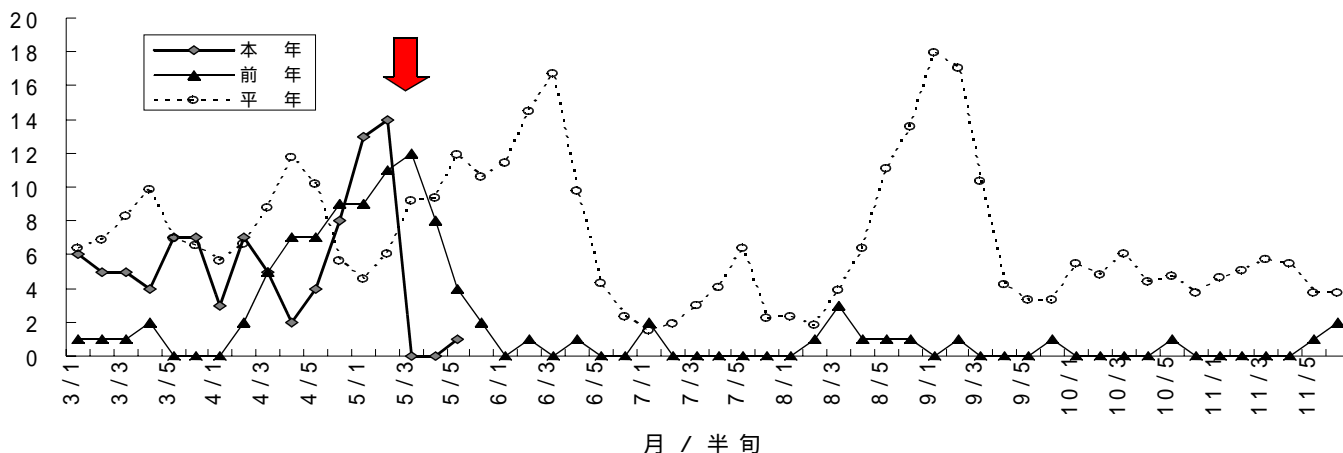


図 1 茶業研究所（御船町）におけるカンザワハダニの寄生葉率の推移

( ↓ : 薬剤散布 )